

# プロレタリア通信

(No. 17号)

1967  
6/19

共産主義者同盟書記局

## 目次

- (一) 六・一五のエネルギーを  
守り砂川大集会と全学連(補遺)大会へ
  - (1) 6・15斗争と6・15集会の意
  - (2) 政治的教訓
  - (3) 組織的教訓
  - (4) 6・15の生み出したもの
    - 党派関係の巨大な変動 ——
  - (5) 全面的とけ潮を党に結集せよ
    - 全国の六・一五集会 ——
- (二) 六・二五横須賀現地斗争へ！ (一時 臨海公園)
- (三) 夏期一時金の一副カンバを完遂しているだろうか
- (四) 8・6方針。
  - (一) 学対批判の強化について

# 7.9 砂川大集会と全学連(再建才三回)大会へ

## (1) 6・15斗争と6・15集会の意義

全日の同志諸君！

我々の六、一五斗争(実行委員会主催の「国会↓都庁デモ」と、六、一五安保記念政治集会は巨大な成功をおさめた。

①一五日午後豪雨をうけて結集した実数九〇〇名の学生によつて、六、一五はまず戦斗的デモによつて勝ちとられた。

デモ規制は遺憾であるとする世裁判決を前に弄り、更にその上に国会擁護のデモ規制に動き出した行政執行庁方(佐ト内閣)の恣意に対し、又、砂川基地拡張の執行人である土地収用委員会(於都庁)に対し、今年六、一五は、まず雨をうけたデモによつて斗いの高揚感があるのである。

②更に夕刻からの六、一五安保記念政治集会は、定刻六時前に場内が超満員のとなり、そこへ、デモ

をうけた一〇〇〇名近い学生がくりこむことによつて、爆発的の大集会となつた。

(当日券の入場者は四〇〇以上。これは昨年の統一集会を上回る)

通路はもとより演壇、場外にあふれた参加者は、券で確認出来た者二五八〇、実際にはそれを上回つていたとはいつていい。

こうして、集会は参加した全員の熱烈な支持のもとに爆発的エネルギーに支えられて、獲得されていった。

今や、東京における我々の六、一五の圧倒的成功は、全日の上り潮状況を生み出したのである。

③我々の六、一五に對して、分裂集会を用いた中核解放両派は、統一集會から分裂しただけで何なく、デモからも逃亡したことによつて、深刻な打撃をうけて動揺し、彼等の成績は乱れた。

これこそが、我々の集會の「圧倒的雰囲気」と

中核の集會の「静か」な雰囲気という決定的差を生み出したのである。

中核派の代表は、統一集會の例年のイメージによつて、事情を知らぬ6、15集會ファンが、かなり集つて、「去年よりは一、二割少ないが、席はうすり、風りに立つ」という状態に実数一五〇〇〜一六〇〇となつた。

集會の動員力において我々は中核派と並んだとみていい。

解放派は五〇〇。

④6、15がダイナミックに切り開いた局面をとことんまで固め尽し、更に、7、9の砂川大集会と大守連大会に向けて保羅的歩進を実現するために、6、15の政治的、組織的教訓を高聲に確認しておく。

## (2) 政治的教訓 — 戦術上の勝利

6、15のダイナミックな成功は、何よりも政治方針の適確さと、①「政治的」な「警報」を「学対」に骨格として組織活動の有機性に基いている。政治教訓上の教訓の第一点目、我々が最後の瞬

向まで、あくまでも、革命的左翼の統一集會を追求した点である。(この我々の基本態度こそが、後に6、15救援会を引きつた、六、一五靈才案と、同盟と救援会の共同主催による圧倒的成功へとみちがいていくことが出来る。)

オニ兵は、今年六、一五集會の政治的地位付けの正しさをあつた。

六〇年6、15国会擁護大集會の革命的意義とその斗いで倒れ同志の斗いを記念するといふ点に、我々は「安保記念」の意味を絞り、(これを「映画」にて餅くする)

今年のおかれていまする意義を「アンドの統一再建」—「全学連の再建」という二点に設定し、更に斗いの基調を「砂川とベトナム」、「砂川斗争と七〇年安保へ」に集約した。

(以上は、故旗五月二五日の政治高呼) オニ兵は、(これこそ我々の、5月にダイナミックな支えをうけたのである)「斗う6、15」として設定した点である。中核派は、分裂させたために集會への動員台戦以外、何も考えられない状態におちいた。これに對して我々は「斗う6、15の位絶」

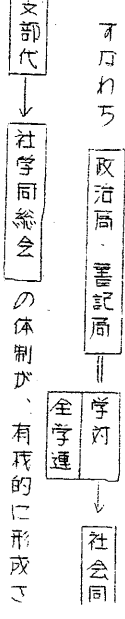
断固として引きつくと共に行政執行力カ、国家権力の根柢的暴力と砂川拡張に對し、我々のテモの案刀を以て斗い抗議し対抗するといふ明確な方針を志した。

以上三桌の明確な方針こそが、我々の6、15の巨大成功を保障したのである。

### (3) 組織的教訓

①才一に、学生戦線において、テモへの結集と集会への組織という両面作戦のりきり、「テモの戦斗的獲得」に「集会への結集」に転化出来たのは、同盟の組織活動の着しい強化によつてである。

我々は、五、二八斗争のプロセスにおいて、我々の資格として全同盟が結集するといふ実践的党体制に向ひ大きく前進し、再に弱兵であつた学生組織活動が大きく改善された。六、一五のテモと集会の成功は、このよう同盟の学生組織活動の着しい強化によつてかたりの部分が保障されたのである。



れ、この組織体制が全面回転したところにある。「我々の資格として全同盟が結集する」という体制が同盟学生戦線においても建設されたのである。だが、真の党体制は、いまだ不十分である。それは、大等細胞が組織されていぬからである。我々の真の体制は「我々の資格として、細胞を基礎とする体制でなければならぬ」。

学対 — 細胞 — 支那同支那代 — 支那同総会、

という真の党組織活動を建設するために、再にも学生の同志諸君、

不拔の大学細胞の強化、確立に力を注げ、その党的組織力こそが、ア、砂川大集会と全学連大会での飛躍的前進を保障する組織的環である。

②集会の結果の再戦の試みは、当日勢入場者が四〇〇名を越した事であり、このことは、我々の集会を最もよく表現している。

学生 一、〇〇〇  
労働者 三〇〇  
一般 三〇〇

これが内訳である。

労働者の組織的結集の三〇〇の希疎は、細胞を

した組織が12、15を大きく上廻ったことである。組織の仕方の内容は次の通り。

細胞 一二〇  
機関 八〇  
電話部 一五〇

この特色も、争前に券を販売してない部分で、電話部々の組織で非常に多数結集した点である。又、12、15に比較して、細胞による結集が、機関メンバーによる結集を上廻った。我々の力量の定着化として高く評価し、更に地区・細胞活動を強化して行く。

### (4) 6.15の生み出したもの

#### — 党派関係の巨大な変動 —

このように6、15斗争と6、15集会は、わが同盟の地位を革命的左翼内部において一挙に浮びあがらせたのであるが、このことは、党派関係に巨大な変動をひき起してあり、全巨的あげ潮状態を呼び起している。

我々のつくつて出したこの事実を、自信をも、では

っさりつかみとり、党への結集と、細胞の拡大強化と同盟の組織的影響下の中にくまなく組織して行くではないか。

①集会の結果力が一五〇の名を上廻ったこと、これは、何よりも同盟の力量を影響力が前進していることを雄弁に物語している（1215集会は九〇〇）。

又、口通才十四号にて指通した通り、四月に入つて敵陣の固定票者数と販売数は着しく伸びた。

二つして我々は、明大斗争で戦った打撃を今や全面的に回復しただけではなく、以前に倍する力量をもつこととなった。

②この我々のダイナミックな伸長は、中核派を除く一方に追込み、中核派をして集会だけにキョウクとする状態に追い込んでいたのである。

③しかも、我々が単独で一〇〇〇のテモを組織したという事実の持つ、持っている重みを改めて自覚しなければならぬ。

単独で一〇〇〇の戦斗的テモを組織しうる力量をもつてけるのは我々だけであり、又それを実現する政治方針をもつてけるのは我々だけである。

④このことは「誰が全学連の責任ある主流派であ



六月二〇日の政治局に於て、七、八斗争以降の七、八日の方針を次のように基本的な決定した。

まず秋の政治斗争の任ムは、

①佐下の南ハトナム防内阻止

②10月に予定されているハトナム反政・沖縄の斗争の粗化

③砂川斗争の推進——の三策に決定されるであろう。

この日程の下に、八月六日の全四反政主催の青年新川若学生討論会（於、広島）に8、6広島策反に、全四的にとりくむ。

全大阪反政、京都府学連を中心部隊としつつも、東京はじめ全四的結集を以てのぞむこととする。

又、我々は、全この四府の斗争的潮流に對して、この八、六策反に結集するよう訴えていく。

すでに、大阪に於ては、七月下旬に、八、六に向ける全大阪反政の結集策反を準備している。

東京に於ても、二水に對して、七月下旬に、東京各地区反政と結集連（全学連）の共同主催にて、統次策反の準備をする。

八、六策反の日は、六月二十七日の全四反政代

表者会談（於る古屋）による。我々の方針も最終決定することとする。

### (五) 学対体制

全学連大会を前にして、我々は、全学連書記局、社学同書記局の一府の強化を迫られける。

六月二十日の政治局会談は、二一身上の理由により、政治局長、学対部長を辞任したいとロウ一岡健司氏の辞任を受理し、早村部長の自任に、政治局長藤井竹明氏を任命した。

全学連大会で学対体制を強化し、それを以て、全学連の完全掌握に向け、バク進することとしなければならぬ。